

皆生みらいの灯りコンセプト

皆生温泉まちづくり会議

皆生みらいの灯りコンセプト

目次

1. 皆生温泉「みらいのあかり」コンセプト
2. 照明手法について
3. デザインイメージ（別紙参照）
 - 3-1 全体イメージ
 - 3-2 エリア別照明計画イメージ

皆生温泉「みらいのあかり」コンセプト



海に開く

① 海側から見える夜景の改善

砂浜と海岸線と旅館が形成する『シーサイドを見通すビスタ』そのものが皆生温泉ならではの魅力。現況の遊歩道照明設備を改修し、砂浜や波濤を照らし**日本屈指のシーサイドリゾート景**に磨き上げる。

② 視点場の照明整備

皆生温泉の誘客を支えてきたホテルや海岸からの「海の眺望」これからは、昼の眺望だけでなく、遊歩道や公園から「夕刻から夜に、海を眺められる」「波音を楽しみながら佇める」など、**佇める視点場や座れる場所のあかり整備**を行う

⑥ 路面が明るく歩く楽しさのある遊歩道へ改善

海岸遊歩道を安心して歩ける道に

歩く楽しさ
歩く発見の提供

海からのVISTAを
阻害しない照明

海に開く
Walk

海に開く
Vista

和の
海遊リゾート
5つの
視点

海に開く
View

海に開く
Activity

海に開く
Eat

④ 海をバックにした撮影スポットの整備

昼夜を問わず来街者に撮影の楽しみを提供するモニュメントを計画し夜間には色光等で演出。

⑤ 海浜アクティビティを支える電源整備

今後期待される様々な海浜アクティビティ・公園の使いこなしを支える照明設備と電源設備を計画する。

③ 飲食の漏れ光を獲得したい

世界の海洋リゾートに不可欠な**海側からの飲食アクセス**を皆生温泉街で実現することをめざす。

海岸遊歩道からアクセスできる「食」が実現し**海側がフロント**になれば、遊歩道の夜間の印象は大きく改善し、様々なあかりのおもてなしが可能になる。

2. 照明手法について

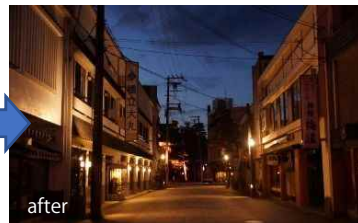
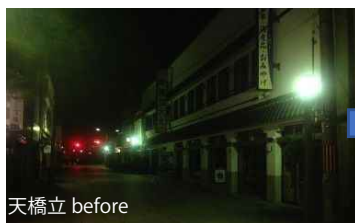
コンセプトに沿って、具体的な計画を実現するにあたって、以下の照明手法に留意する。

- ①あかりの色（色温度）・・・温泉街にふさわしい電球色への統一
- ②最適な配光・・・・・・・・・・道路照明は、窓辺に眩しくなく、路面は明るく
- ③まちの特徴を活かす・・・・・・・・松、ランドマーク・彫刻をライトアップし風景を創る
- ④各旅館の滲み出し・・・・・・・・海側のにぎわいに寄与する事業や効果の探索
- ⑤公園の活用・・・・・・・・・・今後の活用を想定した照明・電気設備計画
- ⑥鉛直面の明るさ感・・・・・・・・安全安心に寄与するライトアップの効果
- ⑦通りの美的価値創出・・・・・・・・中心街路にふさわしい印象を光の効果で創る
- ⑧照明制御・・・・・・・・・・夜間景観を担保したまま省エネルギーに配慮
- ⑨境界のつながりを視覚化・・・共通のあかりを灯す

①あかりの色（色温度） →温泉街にふさわしい電球色での統一

情緒的な温泉街や上質さをめざす観光地においては、公共・民間施設共に照明の色温度は、落ち着いた風情のある電球色（3000K以下）での統一が望ましく、特に民間施設は2700K以下がおすすめです。

「日本らしい温泉情緒」に電球色での統一は不可欠だと考えます。



②最適な配光・・・・・・・・・・道路照明は、窓辺に眩しくなく、路面は明るく

灌漑沿いの既存道路照明は白色の拡散光であり老朽化しているので改修が必要です。

整備にあたって全てを刷新し、ポールにスポットライトにすることで路面が格段に明るくなります。

砂浜演出用照明を共架すれば砂浜も演出できます。



2. 照明手法について

③ まちのシンボルや特徴を活かす

→砂浜、松林、彫刻、建築物などは、ライトアップすることで、その町ならではの風景を創る

- ・皆生温泉の特徴である砂浜や松林は、ライトアップすることで、皆生温泉ならではの夜間景観を創ります。
- ・今ある銅像や建築物も、点在する景観資源となり、海遊リゾートのクオリティを高める効果があります。



④ 各旅館のしみ出し →海沿いの旅館のグランドレベルには、様々なにぎわい創出の可能性はある

現在は閉じている各旅館の海側1階の活用は「海遊リゾート」の重要なファクターとなります。海側からアクセスできるカフェやレストラン、テイクアウトカウンターなどの整備により、それらの漏れ光などの旅館のしみ出しが、日常的な誘客につながると考えます。



グランドレベルに商業施設が集積する海外のリゾート地



界長門 あげぼのカフェ
テイクアウトのカウンターを効果的に使っているホテル

⑤ 皆生海浜公園の活用 →様々な活用が想定されるので、今後の活用を想定した照明・電気設備計画

東屋やトイレ等の建物や松の木をライトアップすることで、明るさ感が高まり夜間にも活用できる公園となります。また、イベントの照明・電気設備を計画することで、キッチンカーやマルシェなど様々な公園イベントの開催が可能になります。



長門湯本温泉でのイベントコンセント盤活用事例

屋外コンセントポール

各地で活況な 公園ナイトイベント

2. 照明手法について

⑥鉛直面の明るさ感・・・安全安心に寄与するライトアップの効果

夜間には暗がりになる樹木は、ライトアップすることで、安心感と眺める心地良さを創ります。防波堤や植栽など、現在暗がりとなっている鉛直面を照らすことで、安心感が生まれ回遊性が高まります。海沿いでのそぞろ歩きを、宿泊客・来街者・住民それぞれが楽しめる環境をめざします。



⑦四条通りの美的価値創出

→樹木や建築物などの鉛直面を照らし明るさ感を高める。通りに面した工作物の木製化も効果がある

街路照明の色温度調整や樹木のライトアップなど、メインストリートにふさわしいあかりの装備にアップデートが望まれます。さらに和の情緒を高める工夫として、民間駐車場のファサードやフェンス等もできるだけ木製にし、間接照明を組み込むなどができれば、安心感と美的価値が高まります。



長門湯本温泉景観ガイドラインより抜粋（アルセッド建築研究所作画）



⑧照明制御→大型照明（路面用ポール照明等）は、全て調光制御し省エネルギーをはかる

快適さと安心安全を担保しながら、深夜のエネルギー管理を行うことはSDGsが求められるこれからの公共照明整備では必須ともいえます。時間や季節に応じた照明制御が可能な照明器具の採用が最適です。



⑨界隈のつながりを視覚化 →軒先におそろいの灯りを配置しストリートの景観をつくる

四条通りにはオリジナル提灯の導入も検討する。電池式光源を使えば、家主が不在でも設置可能。



長門湯本温泉では各旅館や個人宅の軒先に設置



金沢・東茶屋街や倉敷美観地区も閉店しているが、あかりを灯して夜間景観を保持している。